

グリーン・ツーリズム研修プログラム

研修1：グリーン・ツーリズムについての研修

- 1-1. 農林漁家泊全般の概要について学ぶ (P1)
- 1-2. グリーン・ツーリズム全般を専門家から深く学ぶ (P2)
- 1-3. 自然体験活動指導者になるために学ぶ (P4)

研修2：安全管理についての研修

- 2-1. 農林漁家泊の安全管理の概要について学ぶ (P5)
- 2-2. 応急手当の方法について学ぶ (P6)
- 2-3. ハブへの対応について学ぶ (P7)
- 2-4. 海の危険生物について学ぶ (P8)
- 2-5. 防災について学ぶ (P9)

研修3：料理や衛生管理についての研修

- 3-1. 受入家庭での料理や食事、衛生管理の概要について学ぶ (P10)
- 3-2. 食品衛生の専門家などから学ぶ (P11)
- 3-3. 食物アレルギーについて学ぶ (P12)

研修4：教育効果のある内容や指導についての研修

- 4-1. 教育効果のある内容や指導の概要について学ぶ (P13)
- 4-2. 発達障害の子ども達について専門家から学ぶ (P14)

平成26年3月

沖縄県農林水産部村づくり計画課

はじめに

本県の農山漁村地域においては、これまで新鮮な農林水産物の安定供給のみならず、豊かな亜熱帯の自然のもと美しい農村景観の提供、独自の伝統文化の継承等の多岐にわたり重要な役割を果たしてきました。

県では、多面的機能をもつ農山漁村地域の資源等を活かした都市と農村の交流促進に向け、「沖縄21世紀農林水産業振興計画」に基づき農山漁村地域の活性化に向けた「グリーン・ツーリズムの推進」に取り組んでいるところです。

グリーン・ツーリズムとは、「緑豊かな農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動」と定義され、県内においても、他県では体験できない素朴な島の暮らし、特色ある芸能文化、また亜熱帯性気候特有の農林水産物を使った食文化などの体験・交流プログラムが魅力となっており、特に修学旅行生の体験学習を中心に交流人口が増加傾向にあります。

最近では、体験者のニーズも多様化し、また新たにグリーン・ツーリズム等に取り組む農林漁業者も増えつつあることから、体験者に対する安全対策など基礎的な知識や技能の向上が課題となっています。

このような中、県においては、平成25年度「グリーン・ツーリズム支援事業」において、グリーン・ツーリズムにおける課題を整理し、グリーン・ツーリズム実践者の資質向上及び人材育成を目的とした研修プログラムの検討、作成することとしました。

研修プログラムの作成にあたっては、各地区グリーン・ツーリズム協議会等組織代表の皆様との意見交換会を実施、またグリーン・ツーリズムの人材育成に実績のある一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構との連携を図り、各地区で研修プログラム実証研修会を開催、受講者からのアンケートにより改善し今般取りまとめたところです。

本書は、グリーン・ツーリズムに必要な事項を4項目に示した「グリーン・ツーリズム研修プログラム」と、特に修学旅行生の実入りに対応した質問形式での「沖縄らしく交流教育活動を行うための手引書」に分かれており、各地区で自主的に活用できる基礎的な内容となっております。

最後に、本書がグリーン・ツーリズム実践者の皆様の技能向上に活用され、地域全体の資質向上及びグリーン・ツーリズム推進の一助となれば幸いです。


平成26年3月
沖縄県農林水産部村づくり計画課
課長 新城 治

研修1：グリーン・ツーリズムについての研修

1-1. 農林漁家泊全般の概要について学ぶ

研修目的	沖縄らしく交流教育活動を行うことを目的として、農林漁家泊の受入家庭向けにグリーン・ツーリズム全般についての基本的事項を学習するものです。「沖縄らしく交流教育活動を行うための手引き」をテキストとして研修することができます。	
内 容	下に示すように5部構成となっています。 I. 受入れ前におさえておくこと I-1. 教育効果編 I-2. 地域活性化編 I-3. 安全管理編 II. 受入れ中におさえておくこと II-1. 事故予防策 II-2. 子どもたちとの対応編 III. 傷病者発生直後の対応 IV. 受入れ終了後の取り組み V. 発達障害の子どもたちへの対応	
講師依頼先	「沖縄らしく交流教育活動を行うための手引き」をテキストとして使い、地域での自主的な学習に取り組みましょう。 専門家依頼先：(一財) 都市農山漁村交流活性化機構 (まちむら交流きこう)	
所在地	〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町 45 神田金子ビル 5F	
電 話	TEL：03-4335-1981 (代表)	
時間・条件 など	各パートで2～3時間程度です。	
金 額	地域で自主的な学習を開催すれば無料。 上記講師依頼先の場合は内容やテーマ、時間など協議の上、金額が決定となります。	
備 考	テキスト(手引き)に基づく研修状況。 相談先：沖縄県農林水産部村づくり計画課 TEL:098-866-2263	
		

1-2. グリーン・ツーリズム全般を専門家から深く学ぶ

<p>研修目的</p>	<p>グリーン・ツーリズム インストラクター育成スクールは、農村におけるグリーン・ツーリズムの推進及び普及と地域の振興を図る視点から、農林漁業体験や地域景観、地域の伝統、文化等をわかりやすく紹介します。指導する役割を担うインストラクター等を育成するため、農村でこれらの体験活動等に係わる方を対象に、その基礎的な知識、技術等の能力を身につけることを目的として、グリーン・ツーリズムインストラクターを育成します。</p>
<p>内容</p>	<p>① エスコーターコース 緑豊かな農村地域を訪れる方々に、農林漁業体験や地域景観等をわかりやすく紹介し、地域の楽しみ方を紹介する「地域案内人」を育成することを目的としたコースです。</p> <p>② インストラクターコース 緑豊かな農村地域を訪れる方々に、農林漁業体験をはじめとする様々な体験を通して、地域の理解を促す「体験指導者」を育成することを目的とした実践者向けのコースです。</p>
<p>講師依頼先</p>	<p>(一財) 都市農山漁村交流活性化機構 (まちむら交流きこう)</p>
<p>所在地</p>	<p>〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町 45 神田金子ビル 5F</p>
<p>電話</p>	<p>TEL : 03-4335-1981 (代表)</p>
<p>時間・条件 など</p>	<p>①エスコーターコース 期間：2泊3日、遂行人員：8名以上 最大人員：25名 講座内容：座学+実技</p> <p>②インストラクターコース 期間：3泊4日、遂行人員：20名以上 最大人員：25名 講座内容：座学+実技</p>
<p>金額</p>	<p>約20名で沖縄開催の場合、概算で約200万円。事前実地踏査費用やスタッフ5名程度の旅費含む。</p>
<p>備考</p>	<p>カリキュラム内容は次ページのとおりです。下に研修状況の写真を示します。下の写真：(一財) 都市農山漁村交流活性化機構 HP より</p> 

■グリーン・ツーリズム インストラクター育成スクールの内容

(一財) 都市農山漁村交流活性化機構 HP より


項 目	エスコーターコース	インストラクターコース
1. グリーン・ツーリズムとは (60分)	①グリーン・ツーリズムとは何か ②農山漁村での体験交流とは ③地域資源とは	①グリーン・ツーリズムの現と実際 ②農山漁村での体験交流の現状 ③地域資源の発掘
2. インストラクターの基本的役割 (60分)	①グリーン・ツーリズム体験とは ②エスコーターの役割 ③グリーン・ツーリズム体験の機能	①具体的なグリーン・ツーリズム体験 ②インストラクターの役割 ③グリーン・ツーリズム体験の機能
3. 体験の指導方法について (60分)	①都市生活者に人気のある体験 ②都市生活者の求める体験 ③年齢による案内方法 ④人数構成による案内方法 ⑤エスコーターとしての演出方法	①都市生活者に人気のある体験 ②都市生活者の求める体験 ③年齢による指導方法 ④人数構成による指導方法 ⑤インストラクターとしての演出方法
4. インストラクターの話し方教室 (60分)	①案内人の話し方とタイミング ②案内人の伝え方技術 ③身につけておくもの	①指導者の話し方とタイミング ②指導者の伝え方技術 ③身につけておくもの
5. 体験指導者の責任と法律 (60分)	①契約上の義務と道義的責任 ②体験指導時の法的責任	①契約上の義務と道義的責任 ②体験指導時の法的責任
6. 体験活動の安全対策 (120分)	①地域案内中の安全対策 ②緊急時の対応	①体験指導中の安全対策 ②緊急時の対応
7. 保険に関する基礎知識 (60分)	①保険の種類 ②保険の内容	①保険の種類 ②保険の内容
8. 体験プログラムの作成手法 (60分)		①体験プログラムの作成手法 ②体験プログラムの実行
9. 農村フィールドの保全 (60分)		①保全の必要性 ②環境問題 ③マナー
10. グループワーク (600分)	①シミュレーション研究 ②研究発表	①シミュレーション研究 ②研究発表
11. フィールドワーク (420分)		①体験活動の実際 ②まとめ
受講期間	2泊3日	3泊4日

1-3. 自然体験活動指導者になるために学ぶ



研修目的	自然体験活動には、キャンプ、登山、ハイキング、カヤック、自然観察、農林漁業体験など、多様なフィールドで様々な活動があります。自然の中で感性を磨いたり、土地の伝統文化や食文化に触れたり、専門的な知識と技術をもって自然体験活動の普及や振興に貢献するのが「自然体験活動指導者」です。
内容	<p>認定する指導者資格は以下の3種類となります。</p> <p>①自然体験活動指導者（NEALリーダー：自然体験の特定の活動プログラムの指導にあたる）②自然体験活動上級指導者（NEALインストラクター：自然体験活動プログラムの企画・実施者となるとともに、NEALリーダーを指導する）③自然体験活動総括指導者（NEALコーディネーター：自然体験活動事業の企画・実施の総括責任者となるとともに、NEALリーダー及びインストラクターを指導する。</p> <p>内容は、青少年教育における体験活動、学校教育における体験活動、自然体験活動の特質、参加者理解、自然体験活動の技術、自然体験活動の安全管理、自然体験活動の指導、自然体験活動の企画・運営について学びます。</p>
講師依頼先	全国体験活動指導者認定委員会自然体験活動部会 事務局 なお、事務局から沖縄の受け入れ団体を紹介してもらえます。
所在地	〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター内 NPO法人自然体験活動推進協議会
電話	TEL：03-6407-8240
時間・条件など	<p>養成カリキュラムは、全て22.5時間となっており、「概論」（講義および実技）と「演習」（実務経験）の両方の習得が求められます。</p> <p>① 自然体験活動指導者（NEALリーダー） 更新：終身制、登録料：5千円（学生は3千円）、受講資格：18歳以上</p> <p>② 自然体験活動上級指導者（NEALインストラクター） 更新：3年毎の更新制、登録・更新料：6千円（3年間）、受講資格：NEALリーダー資格取得者＋演習Iを修了した者</p> <p>③ 自然体験活動総括指導者（NEALコーディネーター） 更新：3年毎の更新制、登録・更新料：6千円（3年間）、受講資格：NEALインストラクター資格取得者</p>
金額	講師役と相談の上、決定となります。
備考	なお、沖縄での講師役が可能な団体は平成26年3月現在で、やんばるエコツーリズム研究所（国頭村）、がじゅまる自然学校（名護市）、よみたん自然学校（読谷村）、グループエコライフ（浦添市）、NPO法人自然体験学校（八重瀬町）などがあります。

研修2：安全管理についての研修

2-1. 農林漁家泊の安全管理の概要について学ぶ

研修目的	農林漁家泊において受け入れる子どもたちを安全に体験活動が行えるようにすることは、受け入れ農家の責務です。そのために未然防止型の安全対策や事故予防策、傷病者発生直後の対応などを学ぶことが重要です。
内 容	<p>概要は下のような項目です。必要に応じてテーマを設定し、各パートを選択して研修することが可能です。</p> <p>I. 受け入れ前におさえておくこと</p> <p>I-3. 安全管理編</p> <p>Q1. 事故を起こさないようにするためにまず何が必要か</p> <p>Q2. 海体験をさせるためにはどのような安全対策が必要か</p> <p>Q3. 災害対策に何が必要か</p> <p>Q4. 屋内事故や食中毒を起こさないための対策</p> <p>Q5. 食物アレルギーを持つ子どもへの対応</p> <p>Q6. 実際に起きたビックリや失敗事例</p> <p>II. 受け入れ中におさえておくこと</p> <p>II-1. 事故予防策</p> <p>Q1. 子ども特有の配慮事項</p> <p>Q2. 子どもたちに`上手に注意を促す方法`</p> <p>Q3. 集団活動の際の事故の予防策</p> <p>Q4. 子どもの様子がおかしい時</p> <p>III. 傷病者発生直後の対応</p> <p>Q1. 応急手当</p>
講師依頼先	<p>「沖縄らしく交流教育活動を行うための手引き」をテキストとして使い、地域での自主的な学習に取り組みましょう。</p> <p>専門家依頼先：(一財)都市農山漁村交流活性化機構(まちむら交流きこう)</p>
所在地	〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町45 神田金子ビル5F
電 話	TEL：03-4335-1981(代表)
時間・条件	各パートで1～2時間程度です。
金 額	<p>地域で自主的な学習を開催すれば無料。</p> <p>上記講師依頼先の場合は内容やテーマ、時間など協議の上、金額が決定となります。</p>
備 考	<p>テキスト(手引き)に基づく研修状況。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;"> <p>「ハインリッヒの法則」のイメージ</p> </div> </div>

2-2. 応急手当の方法について学ぶ

<p>研修目的</p>	<p>私たちは、いつ、どこで、突然のけがや病気におそわれるかわかりません。一刻を争う応急手当が出来るのは、その場に居合わせた人です。受入れた子ども達だけでなく、大切な人を、家族を、命を守るため、救命講習を受講して知識と技術を学ぶことが求められます。</p>
<p>内 容</p>	<p>① 普通救命講習Ⅰ 成人に対する心肺蘇生法(人工呼吸や心臓マッサージ)及びAED取扱い、気道異物除去などを勉強します。</p> <p>② 普通救命講習Ⅱ 成人に対する救命処置で、心肺蘇生法(人工呼吸や心臓マッサージ)及びAED取扱い、気道異物除去などを勉強します。</p> <p>③ 普通救命講習Ⅲ 小児・乳児・新生児に対する救命処置で、心肺蘇生法(人工呼吸や心臓マッサージ)及びAED取扱い、気道異物除去などを勉強します。</p> <p>④ 上級救命講習 成人及び小児、乳児、新生児に対する心肺蘇生法(人工呼吸や心臓マッサージ)及びAED取扱い、気道異物除去、止血法、外傷の手当て、搬送法などを勉強します。</p>
<p>講師依頼先</p>	<p>各地域の消防本部</p>
<p>所在地</p>	<p>各地域の消防本部</p>
<p>電 話</p>	<p>各地域の消防本部</p>
<p>時間・条件 など</p>	<p>① 普通救命講習Ⅰ：3時間 ② 普通救命講習Ⅱ：4時間 ③ 普通救命講習Ⅲ：3時間 ④ 上級救命講習：8時間 ※上記講習は定期開催や出前講座(一定以上の人数が集まる場合)などがあり、各地域の消防本部までお問い合わせください。</p>
<p>金 額</p>	<p>無料。</p>
<p>備 考</p>	<p>救急救命講習の状況。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

2-3. ハブへの対応について学ぶ

<p>研修目的</p>	<p>沖縄県のハブ類咬症者数は、ここ10年ぐらいは100名前後で推移しており、ほとんどの方が手・足の先を咬まれます。畑で咬まれることが多く、また屋内や屋敷内で咬まれることもあります。</p> <p>このようなハブ類の咬傷被害を減らすためにも、身の周りのハブ対策を心がけることは重要であり、研修を行う必要があります。</p>
<p>内 容</p>	<p>沖縄県内にはハブ、サキシマハブ、ヒメハブ、タイワンハブの4種類が生息しています。治療法が改善されたため命を落とすことはほとんどなくなりましたが、咬まれたあとに後遺症を残す場合があります。</p> <p>沖縄県では、ハブの活動が盛んな5、6月に「ハブ咬症注意報」、そして10、11月を「ハブ咬症防止運動月間」として県民に注意を呼びかけています。ハブの分布、ハブの生活、ハブの見分け方、ヘビの特徴、もし咬まれたら、ハブの被害、ハブ対策などについて学ぶことができます。なお、詳細については相談の上、決定になります。</p>
<p>研修名等</p>	<p>下記講習会が毎年開催されますので、その講習会を受講しましょう。</p> <p>名称：ハブ・ハブクラゲ等危険生物講習会 主催：沖縄県保健医療部薬務疾病対策課 例年の開催場所：パレット市民劇場（那覇市） 例年の開催時期：5～6月</p> <p>なお、開催場所および開催時期は年によって変更する可能性があります。詳しくは下記までお問い合わせください。</p>
<p>所在地</p>	<p>〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2 行政棟 3階（北側）</p>
<p>電 話</p>	<p>TEL：098-866-2215</p>
<p>金 額</p>	<p>無料</p>
<p>備 考</p>	<p>沖縄県から発行されているハブに関する見分け方や、対処法等が記された資料が下のものです。下記の沖縄県のホームページからダウンロードすることが可能です。</p> <p>http://www.pref.okinawa.jp/site/fukushi/yakumu/yakumu/habu.html</p> <div data-bbox="646 1637 927 2027" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="943 1816 1361 1928" data-label="Text"> <p>「ハブに注意！」監修：沖縄県 第3改訂平成23年3月</p> </div>

2-4. 海の危険生物について学ぶ

<p>研修目的</p>	<p>沖縄県外からきた修学旅行生は、沖縄の海体験を楽しみにしている場合が多いものです。しかし、沖縄の海には気を付けなければならない危険な生物が生息しています。</p> <p>そこで、海の危険な生物の特徴や刺されるなどの被害を受けた際の対応方法について学ぶことが重要となってきます。</p>
<p>内 容</p>	<p>ハブクラゲやウンバチイソギンチャク、イモガイの仲間、ウミヘビ、ヒョウモンダコ、オコゼの仲間、ゴンズイ、ミノカサゴの仲間、オニヒトデ、ガンガゼ、ラップウニなどの特徴や応急処置の方法について学ぶことができます。</p> <p>なお、詳細については相談の上、決定になります。</p>
<p>講師依頼先</p>	<p>下記講習会が毎年開催されますので、その講習会を受講しましょう。</p> <p>名称：ハブ・ハブクラゲ等危険生物講習会 主催：沖縄県保健医療部薬務疾病対策課 例年の開催場所：パレット市民劇場（那覇市） 例年の開催時期：5～6月</p> <p>なお、開催場所および開催時期は年によって変更する可能性があります。詳しくは下記までお問い合わせください。</p>
<p>所在地</p>	<p>〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2 行政棟 3 階（北側）</p>
<p>電 話</p>	<p>TEL：098-866-2215</p>
<p>金 額</p>	<p>無料</p>
<p>備 考</p>	<p>沖縄県から発行されている海の危険な生物に関する特徴や対処方法が記された資料が下のものです。下記の沖縄県のホームページからダウンロードすることが可能です。</p> <p>http://www.pref.okinawa.jp/site/fukushi/yakumu/yakumu/uminokiken/seibutunituite.html</p> <div data-bbox="737 1552 1305 1948" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="655 1951 1375 2029" data-label="Caption"> <p>「気をつけよう!!海のキケン生物」沖縄県福祉保健部</p> </div>

2-5. 防災について学ぶ

研修目的	<p>沖縄県においても台風や地震、津波などの自然災害は、時として想像を超える力で襲ってきて、そして甚大な被害を引き起こす可能性があります。しかし、日頃から防災対策をしておくことで、被害を少なくすることができます。そのため、防災対策で大切なことについて学ぶことは被害軽減のためにも大変重要なことと言えます。</p>
内容	<p>受講対象者の防災意識や対象災害などに応じて様々に適切な内容に設定することが可能です。基本的には座学的な講習が多いですが、ワークショップ形式でコミュニケーションを図りながらの講習内容とすることも可能です。内容については相談の上、設定することができます。</p>
講師依頼先	<p>特定非営利活動法人 日本防災士会 沖縄県内には平成 26 年 3 月現在、支部がないため、上記に講師依頼が必要です。なお、防災士は沖縄県内にもいます。</p>
所在地	〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-9-8-303
電話	TEL : 03-3592-1788
時間・条件など	<p>相談の上、決定になります。 一般市民向けの場合は 1 時間~1 時間 15 分程度の講習が多いです。 ワークショップの場合などは、数時間に及びます。</p>
金額	内容や時間などを勘案し、講師役と相談の上、決定になります。
備考	<p>防災士が修得している防災知識・技能は、概ね次の通りです。</p> <p>1. 事前対策に必要な知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における災害リスクの把握、家具転倒防止策の理解と指導要領、備蓄品、防災器具等の理解と指導要領、簡易耐震診断の説明と実施要領、耐震補強法の理解と実施要領、各種防災訓練の企画・立案・指導要領、DIG（災害図上演習）の理解と指導要領、自主防災組織の結成、活動計画の策定の手順、BCP策定の手順 <p>2. 応急対策に必要な知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安否確認の方法、災害用伝言ダイヤル・災害用伝言板の使用要領、災害時の情報収集・通報要領、初期消火活動要領、負傷者の救急・救護（応急手当、AEDの操作方法）要領、被災者の避難誘導要領、要援護者の救出、搬送要領、非常食の炊出し要領、避難所の開設・運営要領

研修3：料理や衛生管理についての研修

3-1. 受入家庭での料理や食事、衛生管理の概要について学ぶ

<p>研修目的</p>	<p>農林漁家泊において受け入れる子どもたちに地域の沖縄らしい食材を使って美味しく安全・安心な料理を提供することは、受け入れ農家の責務と言えます。そのために料理や食事、衛生管理の概要について学ぶことが重要です。</p>
<p>内容</p>	<p>概要は下のような項目です。必要に応じてテーマを設定し、各パートを選択して研修することが可能です。</p> <p>I. 受け入れ前におさえておくこと</p> <p>I-1. 教育効果編</p> <p>Q3. 受け入れ家庭での料理や食事</p> <p>I-3. 安全管理編</p> <p>Q4. 屋内事故や食中毒を起こさないための対策</p> <p>Q5. 食物アレルギーを持つ子どもへの対応</p> <div data-bbox="1077 613 1364 1025" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div>
<p>講師依頼先</p>	<p>「沖縄らしく交流教育活動を行うための手引き」をテキストとして使い、地域での自主的な学習に取り組みましょう。</p> <p>専門家依頼先：(一財) 都市農山漁村交流活性化機構 (まちむら交流きこう)</p>
<p>所在地</p>	<p>〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町 45 神田金子ビル 5F</p>
<p>電話</p>	<p>TEL：03-4335-1981 (代表)</p>
<p>時間・条件 など</p>	<p>各パートで1～2時間程度の研修です。</p>
<p>金額</p>	<p>地域で自主的な学習を開催すれば無料。</p> <p>上記講師依頼先の場合は内容やテーマ、時間など協議の上、金額が決定となります。</p>
<p>備考</p>	<p>テキスト(手引き)の内容の一部を下に示します。</p> <div data-bbox="427 1608 1364 1904" style="display: flex; justify-content: space-around;"> </div> <div data-bbox="427 1910 1364 1982" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>料理講習会の開催状況(料理上手が講師役となり、みんなで食べ比べ、レシピを学び、そして、さらにはいいアイディアを出し合います)♪</p> </div>

3-2. 食品衛生の専門家から学ぶ

<p>研修目的</p>	<p>沖縄県は地理的特性から高温多湿な環境となりやすく、食中毒を起こす原因となる細菌が増殖しやすく、1年中、食中毒が発生しています。沖縄県全体では毎年数百名の食中毒患者が発生しており、飲食店に続いて家庭での発生件数が高くなっています。このような中、受け入れた子どもたちへ安全・安心な食事を提供することは受け入れ側として必須のことです。そのために食品衛生について研修し、食中毒を発生させないように取り組むことは非常に重要なことと言えます。</p>
<p>内 容</p>	<p>受講対象者のレベルやテーマに合わせて内容を設定することになります。内容的には食中毒の発生状況、食中毒の発生原因、食中毒を防ぐ方法、主な食中毒の潜伏時間・症状・予防法、食中毒の分類、施設の管理及び食品の取り扱い、食品の鮮度及び保存などについて学ぶことが可能です。</p>
<p>講師依頼先 所在地、電 話など</p>	<p>下に示す沖縄県内の福祉保健所等に依頼しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県保健医療部 生活衛生課 那覇市泉崎 1-2-2 TEL:098-866-2055 ・ 北部福祉保健所 生活環境班 名護市大中 2-13-1 TEL:0980-52-2636 ・ 中部福祉保健所 生活衛生班 沖縄市美原 1-6-28 TEL:098-938-9787 ・ 那覇市保健所 生活衛生課 那覇市与儀 1-3-21 TEL:098-853-7963 ・ 南部福祉保健所 生活衛生班 南風原町字宮平 212 TEL:098-889-6799 ・ 宮古福祉保健所 生活環境班 宮古島市平良東仲宗根 476 TEL:0980-72-3501 ・ 八重山福祉保健所 生活環境班 石垣市真栄里 438 TEL:0980-82-3243
<p>時間・条件 など</p>	<p>内容やテーマなど相談の上、決定になります。</p>
<p>金 額</p>	<p>沖縄県の各公的機関は基本的に無料です。 民間の講師を派遣する必要がある際はその講師への費用が発生します。 講師費用は概ねの目安として2時間程度の研修で約20,000～30,000円。</p>
<p>備 考</p>	<p>沖縄県内の民間会社であるQSCサポート(南城市:TEL:090-9789-7163)と(有)開発屋でいきたん(沖縄市:TEL:098-939-9777)は食品の衛生・品質管理等の民間コンサルタント。衛生管理に加えて食物アレルギーの講習についても併せて実施可能です。</p>

3-3. 食物アレルギーについて学ぶ

<p>研修目的</p>	<p>食物アレルギーとは、食品中のアレルギー物質（アレルゲン）を体内に取り込むことによって起こる様々な反応のことをいいます。食物が原因で起こるアレルギー反応は人により様々ですが、下痢、嘔吐、腹痛などの消化器系症状、アトピー性皮膚炎、湿疹などの皮膚症状、くしゃみ、せき、などの呼吸器系症状などとして現れることがあります。</p> <p>アレルギー反応の中でも、生死に関わる重篤な症状が伴うものをアナフィラキシーショックといいます。原因となる物質を少量食べただけでも強いアレルゲンとなり、呼吸困難や意識不明など重篤な症状を引き起こします。したがって、食物アレルギーについて研修し、アレルギー反応を発生させないように取り組むことは非常に重要なことと言えます。</p>
<p>内容</p>	<p>インターネット上で食物アレルギーや代替食の作り方について学ぶことができる遠隔教育システム「e-ラーニング」を下に紹介します。</p> <p>食物アレルギー総論や小児の食物アレルギーの食事、牛乳や小麦を使わない料理コンテンツなどについて学べます。このようなサイトを活用して自主的に学べます。</p> <p>■インターネット上の食物アレルギー・代替食の作り方教室</p>  <p>http://ael.moovii.jp/al_food.html</p>
<p>講師依頼先</p>	<p>上述したサイトなどを利用して地域での自主的な学習に取り組みましょう。</p>
<p>時間・条件 など</p>	<p>上記のサイトはそれぞれ10分未満から15分程度の動画となっています。動画を見た後、意見交換や実習を行うことで1～3時間程度の研修になります。</p>
<p>金額</p>	<p>地域で自主的な学習を開催すれば無料。</p>
<p>備考</p>	<p>沖縄県内の民間会社であるQSCサポート（南城市：TEL090-9789-7163）と（有）開発屋でいきたん（沖縄市：TEL：098-939-9777）は食品の衛生・品質管理等の民間コンサルタント。食物アレルギーに加えて衛生管理の講習についても併せて実施可能です。費用については相談の上、決定になります。</p>

研修4：教育効果のある内容や指導についての研修

4-1. 教育効果のある内容や指導の概要について学ぶ

研修目的	農林漁家泊においては受け入れる子どもたちに学校が求める教育効果の高い交流・体験活動を行う必要があります。そうすることで、受け入れた子どもたちが成長し、今後さらに飛躍していくことに繋がっていきます。そのためにはどのような取り組みや工夫をすれば高い教育効果が得られるのかを学ぶことが重要です。
内 容	<p>概要は下のような項目です。必要に応じてテーマを設定し、各パートを選択して研修することが可能です。</p> <p>I. 受け入れ前におさえておくこと</p> <p>I-1. 教育効果編</p> <p>Q1. なぜ学校が交流・体験活動をさせるのか</p> <p>Q2. 受け入れ家庭としての条件の目安</p> <p>Q3. 受け入れ家庭での料理や食事</p> <p>Q4. どのような体験を行えばいいのか</p> <p>Q5. 学が求める交流体験活動</p> <p>Q6. 子どもたちへの話題</p> <p>Q7. 観光させていいのか</p> <p>II. 受け入れ中におさえておくこと</p> <p>II-2. 子どもたちとの対応編</p> <p>Q1. 子どもたちに接する場合の心構え</p> <p>Q2. 子どもに飽きさせない方法</p> <p>Q3. セクシャル・ハラスメント</p> <p>V. メンタル不全の子どもたちへの対応</p>
講師依頼先	<p>「沖縄らしく交流教育活動を行うための手引き」をテキストとして使うことで地域での自主的な学習に取り組みましょう。</p> <p>専門家依頼先：(一財) 都市農山漁村交流活性化機構 (まちむら交流きこう)</p>
所在地	〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町 45 神田金子ビル 5F
電 話	TEL：03-4335-1981 (代表)
時間・条件 など	各パートで1～3時間程度の研修になります。 座学だけでなく、ワークショップ形式で全員参加型の研修にすると主体的に学ぶことが可能です。
金 額	地域で自主的な学習を開催すれば無料。 上記講師依頼先の場合は内容やテーマ、時間など協議の上、金額が決定となります。
備 考	<p>テキスト（手引き）の内容の一部を下に示します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>不登校・引きこもり・ニートの原因</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生活習慣の乱れ（夜更かし、朝食欠食） ● 希薄な対人関係（保護者、地域の大人の関与、仲間との接触が少ない） </div> <p style="text-align: center; color: red; font-weight: bold; margin: 10px 0;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>文部科学省の方針：“生きる力”を育む体験学習と道徳教育を重視！</p> </div>



4-2. 発達障害の子ども達について専門家から学ぶ

<p>研修目的</p>	<p>発達障害とは、発達障害者支援法によると「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるもの」と定義されています。</p> <p>近年、農林漁家泊の受け入れ関係者から、このような発達障害の子どもたちが増えているとの意見があり、安全に受け入れられるようになるとともに教育効果が高くなる対応方法について研修する必要があります。</p>
<p>内容</p>	<p>受講対象者のレベルに合わせて講習内容を設定する必要があります。例えば、多様な発達障害の特徴や対応方法について学ぶことが求められます。講師依頼先に相談・問い合わせの上、研修したいテーマに合わせて内容を設定しましょう。</p>
<p>講師依頼先</p>	<p>沖縄県発達障がい者支援センター（がじゅま〜る）</p>
<p>所在地</p>	<p>〒904-2173 沖縄県沖縄市比屋根5丁目2番17号 (沖縄小児発達センター内に併設)</p>
<p>電話</p>	<p>TEL：098-982-2113</p>
<p>時間・条件 など</p>	<p>内容やテーマなど相談の上、決定になります。 圏域毎でできるだけ人数を多く集めて一度に開催できるようにしましょう。また、講師派遣依頼書の提出が必要になります。 詳しくは下のホームページで確認してください。</p>
<p>金額</p>	<p>基本的に無料です。 なお、旅費等の実費については支払う必要があります。</p>
<p>備考</p>	<p>■沖縄県発達障がい者支援センター がじゅま〜るホームページ http://www.okinawa-gajyumaru.jp/</p>

グリーン・ツーリズム研修プログラム

平成26年3月

発行：沖縄県農林水産部村づくり計画課
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号
TEL：098-866-2263 FAX：098-869-0557